

刀剣博物館にて。(左から)当組合・清水理事長、日刀保・柴原専務理事、当組合・服部副理事長、同・嶋田専務理事



公益財団法人日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長)が待望の新刀剣博物館に移転しました。

秋晴れの爽やかな一日、その刀剣博物館を初訪問するため、清水理事長・嶋田専務理事とJR両国駅で待ち合わせました。

両国駅は山手線の多くの駅と比べると、静かです。大相撲の場所中ではないから、ということもあるでしょう。建物も堅牢な感じで、現在使われないで封鎖してある薄暗い階段からは、総武本線のターミナルとしてのかつての賑わいが偲ばれます。

駅を出て右手に進むと、すぐが江戸東京博物館、次が大相撲の蔵前国技館です。その日は何と外国のスポーツカーのショーが開催されていました。

日刀保が移転、新築成った新刀剣博物館を訪ねる

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



2017.11.15 No.38

発行人 清水 儀孝
発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
http://www.zentosho.com/

第38号編集担当 赤荻 稔 飯田 慶雄
伊波 賢一 大平 岳子 大平 将広 嶋田 伸夫
清水 儀孝 生野 正 瀬下 明 瀬下 昌彦
土子 民夫 網取 譲一 土肥 富康 服部 暁治
松本 義行 冥賀 吉也 持田 具宏
編集顧問/ 深海 信彦

認定事業担当 赤荻 稔 飯田 慶久
伊波 賢一 大平 岳子 大西 康一 木村 義治
佐藤 均 猿田 慎男 嶋田 伸夫 清水 儀孝
生野 正 瀬下 明 土子 民夫 網取 譲一
土肥 豊久 服部 暁治 深海 信彦 松本 義行
冥賀 吉也 持田 具宏 吉井 唯夫

全国刀剣商業協同組合は創立から30年を迎えました。そこで「組合30年の歩み」を企画しています。組合の行事や歴史に関わる写真や資料をお持ちでしたら、ぜひご提供をお願いします。



広々とした1階のオープンスペース



新刀剣博物館(左)

なっていてデパートかシティホテルのようですが、博物館なので空調にはとりわけ配慮していることが感じ取れました。入ってすぐのところに、本間薫山先生と佐藤寒山先生の胸像がありました。ここで、まず一礼。そこに柴原専務理事・飯田俊久事務局長のお二方がおいでになり、一階フロア構成のご説明をいただきました。

一階講堂で行われるそうです。二階からは柴原専務理事にご案内いただきました。事務所スペースは広々として、窓からの眺望も素晴らしい。開放感があります。会長室・資料室・書庫・審査室・撮影室も二階です。エレベータは来客用と業務用がありました。三階に案内していただくメインの刀剣展示室は来春のオープンに向けて施工の真っ最中であり、入り口からのぞくだけでしたが、かなり広く感じられました。三階の展示ケースを使用する前には厳しい検査があり、それに合格しないと使用できないため、壁面の内部には文化財を守るための諸設備が施されているとのことでした。三階からは屋上庭園に出られ

ます。眼下に安田庭園が広がり、京都の名勝に似ているかのようです。来館の折にはぜひ立ち寄りたいたいところです。

新しい役員室で柴原専務から新築と移転にまつわる苦勞やエピソードを伺いました。墨田区から提示された最初の移転先候補地が、道路反対側の首都高速のすぐ脇だったことには驚かされました。現在の場所とは雲泥の差です。

現在は駅からのアクセスが安田庭園の塀の外側を歩いてこなければならぬのですが、墨田区の配慮で、安田庭園の中を通って博物館の正面へ出られるように現在、新たな通用門が作られているそうです。博物館見学が先か、それとも庭園散策か、悩ましいところです。

今後は近隣の江戸東京博物館や、すみだ北斎美術館と合同での三館巡り、それに大相撲とのコラボ企画も視野に入っているようです。

公益財団法人日本美術刀剣保存協会・刀剣博物館 〒113-0100
015 東京都墨田区横網1-2-1
☎03-3628-4100
FAX 03-3628-4100
https://www.touken.or.jp/

刀剣・書画・骨董
和敬堂
土肥豊久・土肥富康
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
http://wakeidou.com/

美術刀剣・刀装小道具商
やしま
齋藤雅稔・隆久・隆洋
刀装小道具通信販売目録「やしま」
年間10回位発行予定
購読料10回 2,000円(郵便切手可)
〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

金工・刀身彫刻・修理・諸工作式
柳匠堂
柳村宗寿
岡山市北区平和町二丁目
TEL 086-223-1131
TEL 086-223-1132
TEL 086-223-1133
TEL 086-223-1134
TEL 086-223-1135
TEL 086-223-1136
TEL 086-223-1137
TEL 086-223-1138
TEL 086-223-1139
TEL 086-223-1140
TEL 086-223-1141
TEL 086-223-1142
TEL 086-223-1143
TEL 086-223-1144
TEL 086-223-1145
TEL 086-223-1146
TEL 086-223-1147
TEL 086-223-1148
TEL 086-223-1149
TEL 086-223-1150

町田久雄
埼玉県秩父市野坂町一丁目一六六一
西武秩父駅連絡通路町久ビル内
TEL 0494-131-3067
FAX 0494-131-3067

大阪刀剣会
吉井唯夫
大阪府中央区日本橋二丁目一
TEL 06-6631-2111
TEL 06-6631-2112
FAX 06-6644-5464
FAX 06-6644-5464

刀 剣 界

■全刀商の活動 「大刀剣市」カタログ編集委員会 若手委員の活躍で例年以上に充実

今年も六月に「大刀剣市」実行委員会が清水理事長の委嘱を受けて立ち上がり、七月からは「大刀剣市2017」カタログの制作が始まりました。

参加する各店から掲載する商品が寄せられ、まずは写真撮影が行われます。昨年から組合が集荷する方法をやめ、出店者の方々に指定する撮影会場へ直接持ち込んでいただくことになりました。

今年は刀装・刀装具類の場合、七月二十六～二十八日の三日間内にお持ちいただき、撮影終了後にお持ち帰り願いました。連日、午前十時に服部一隆さんに会場を開けていただき、円滑な撮影が想定通りに行えました。

高価な掲載品の取り扱いに万全の配慮をしながら、出店者の要望を提出された申込用紙で確認しま



校正に取り組む委員の皆さん



完成した「大刀剣市2017」

以前は八名から十名ほどでやっていましたが、今回は日ごろから組合活動に協力して下さっている若手三名のテキパキとした仕事ぶりもあって、順当にまとまりました。編集作業を経て、初校

す。もし不具合や行き違いがあったら、大変な迷惑をかけてしまいます。出店者の意向がカメラマンにも円滑に伝わるように、二十

この初校の際にも、平日の日中午にカATALOGのページ割付を行いました。ここでは申込書に添付された多くの書類を整理することから始まり、店舗ごとの掲載品の点数とページごとのレイアウト、総ページを確認します。必ず添付することになっている鑑定書類との突き合わせも不可欠です。その上で、不公平にならないよう、体裁上の要素も勘案しながら、掲載順を決めていきます。ご覧いただいているように、今年のカATALOGは過去最大のボリュームになりました。

は九月十一日に同美印刷にて行いました。参加したのは、土子編集長・冥賀理事・生野理事・松本理事・服部一隆さん・冥賀亮典さん・大平将広さん、それに事務局二名と筆者の計十名です。

この初校の際にも、平日の日中午にカATALOGのページ割付を行いました。ここでは申込書に添付された多くの書類を整理することから始まり、店舗ごとの掲載品の点数とページごとのレイアウト、総ページを確認します。必ず添付することになっている鑑定書類との突き合わせも不可欠です。その上で、不公平にならないよう、体裁上の要素も勘案しながら、掲載順を決めていきます。ご覧いただいているように、今年のカATALOGは過去最大のボリュームになりました。

再校は九月二十日。参加者は土子編集長・服部副理事長・網取常務理事・藤田裕介さん・筆者の五人。今年は全国美術刀剣青年会の代表幹事を務める藤田さんですが、多忙な中を編集会議に参加し、率先して商品解説の疑わしい点などを指摘してくださいました。

共同販売事業が事故もなく順調に推移している現状には、若い組合員の奉仕が大きく貢献しているのも事実です。今後は今以上に若い組合員の方々にご参加いただきながら、共同販売事業を盛り立てて行きたいと思えます。

この初校の際にも、平日の日中午にカATALOGのページ割付を行いました。ここでは申込書に添付された多くの書類を整理することから始まり、店舗ごとの掲載品の点数とページごとのレイアウト、総ページを確認します。必ず添付することになっている鑑定書類との突き合わせも不可欠です。その上で、不公平にならないよう、体裁上の要素も勘案しながら、掲載順を決めていきます。ご覧いただいているように、今年のカATALOGは過去最大のボリュームになりました。

この初校の際にも、平日の日中午にカATALOGのページ割付を行いました。ここでは申込書に添付された多くの書類を整理することから始まり、店舗ごとの掲載品の点数とページごとのレイアウト、総ページを確認します。必ず添付することになっている鑑定書類との突き合わせも不可欠です。その上で、不公平にならないよう、体裁上の要素も勘案しながら、掲載順を決めていきます。ご覧いただいているように、今年のカATALOGは過去最大のボリュームになりました。

イベント当たり五千円程度の広告料を頂きます。厳しい予算の中、この収入で継続するシステム開発に伴う費用を賄う予定です。限られた予算と人材の中、開発の継続には困難が伴いますが、IT社会となった今日、アナログや旧式のままでは情報の対応に不便を伴いかねません。組合HPはそれに対応するべく、組合紙「刀剣界」とともに、組合員にとっての情報発信源を担えるようになればと希望しています。

今後、組合HPのあり方や運営の方法などについて、組合員の皆さまからの意見を反映し、閲覧者数も多い、より魅力あるものを作っていきたく考えています。ご理解とご協力をお願いします。

本紙前号でお知らせしました組合創立三十周年記念祝賀会につきましては、その後の事情により延期させていただくこととなりました。誠に恐縮に存じますが、なにとぞご猶予を賜りますようお願いいたします。

申し上げます。●賛助会員に新規加入のお申し込みをされた皆さまには、受付の手続きは完了しておりますが、賦課金(会費)のご請求は来年四月からの

「種の保存法」改正の中間報告施行前に早めの対応を！「絶滅のおそれのある野生動物種の保存に関する法律」いわゆる「種の保存法」の一部改正については、今年六月に東京美術倶楽部において経済産業省生活製品課の担当者二名により説明があったが、その後の進捗状況報告会が去る九月二十六日、全国美術商連合会(全美連)と当組合に対して行われた。

環境省も関わる同法は、詳細がまだ定まらない部分もあるが、改正法は第一九三回国会で成立し、本年六月二日に公布されており、公布日から一年以内、すなわち平成三十年六月一日までに施行されることが既に決定している。

既に届け出済みの事業者であれば、手続き・手数料なく自動的に特別国際種事業者となるので、そうでなければ早めの届け出を勧めます。カットピースを含む象牙製品

の扱いは、引き続き台帳に記載するが、一定の大きさ以上のカットピースや製品には、管理票を作成することである。なお、法改正施行後の登録更新手続きには、政令で定められる手数料が発生する。さらに、現行法施行後の新規登録には別途登録免許税九万円がかかる。また、先出の匿名調査ではないが、無登録全形牙の取引は、種の保存法により厳しい罰則が科されることを、あらためて注意喚起しておきたい。

さて、組合員の皆さんはお客さまから全形牙について相談を受けたいことではないだろうか。平成三十一年夏から書類審査が厳しくなる予定のようだが、環境省では現在、国内の全形牙量把握を進めているので、象牙在庫把握キャンペーン事務局(〇三六六五九四六六〇)への相談をお勧めする。

届け出済業者の方は、二年ごとの事業報告提出依頼が郵送されていたと思う(十一月四日提出期限が、お忘れではないだろうか。取り扱いや在庫がなくとも、報告の提出義務がある。(伊波賢一)

環境省のキャンペーンポスター

TEL: 03-6659-4660

象牙白黒写真撮影(15分~17分)

「登録証問題」を考える Ⅱ

事例 19 先日、お客さまから刀を購入し登録証の名義変更の手続きをしようとしたところ、登録証に県名が未記載であることに気がつきまし

十七都道府県全ての教育委員会に照会していただきましたが、どこにも一致するものはありません。そこで、あらためて群馬県で新規登録していただけることになりました。

当社の登録審査会は二カ月に一度のため、相応の時間は要しましたが、大変面倒な処理にもかかわらず、丁寧に対応していただきました。ほかにも、登録証に誤字・脱字がある場合など、群馬県教育委員会にはお世話になっていますが、毎回迅速な対応をしていただき感謝しています。

(登録証問題研究会)

このほど、当組合のホームページ(以下「組合HP」)がデザインを一新し、機能を充実させてリニューアルしました。

組合HPは六年前に初めて開設されましたが、従来は情報の更新が十分とは言えず、閲覧数もあまり多い状況ではありませんでした。今後は新しいシステムにより、外部に頼ることなく自身で情報の更新が行えるようになります。「組合からのお知らせ」など追加入力や記載内容の変更、「刀剣界」の最新号アップが容易になり、更新頻度が格段に増すことでしょうか。そして新たな掲載項目を加え、より情報の発信度合いを高めます。

まずは、組合員が開催する全国の展示即売会を掲載し、一般の閲覧者数アップを図ります。掲載するには、年内はお試期間にて無料ですが、来年以後は一

イベント当たり五千円程度の広告料を頂きます。厳しい予算の中、この収入で継続するシステム開発に伴う費用を賄う予定です。限られた予算と人材の中、開発の継続には困難が伴いますが、IT社会となった今日、アナログや旧式のままでは情報の対応に不便を伴いかねません。組合HPはそれに対応するべく、組合紙「刀剣界」とともに、組合員にとっての情報発信源を担えるようになればと希望しています。

今後、組合HPのあり方や運営の方法などについて、組合員の皆さまからの意見を反映し、閲覧者数も多い、より魅力あるものを作っていきたく考えています。ご理解とご協力をお願いします。

本紙前号でお知らせしました組合創立三十周年記念祝賀会につきましては、その後の事情により延期させていただくこととなりました。誠に恐縮に存じますが、なにとぞご猶予を賜りますようお願いいたします。

環境省も関わる同法は、詳細がまだ定まらない部分もあるが、改正法は第一九三回国会で成立し、本年六月二日に公布されており、公布日から一年以内、すなわち平成三十年六月一日までに施行されることが既に決定している。

既に届け出済みの事業者であれば、手続き・手数料なく自動的に特別国際種事業者となるので、そうでなければ早めの届け出を勧めます。カットピースを含む象牙製品

の扱いは、引き続き台帳に記載するが、一定の大きさ以上のカットピースや製品には、管理票を作成することである。なお、法改正施行後の登録更新手続きには、政令で定められる手数料が発生する。さらに、現行法施行後の新規登録には別途登録免許税九万円がかかる。また、先出の匿名調査ではないが、無登録全形牙の取引は、種の保存法により厳しい罰則が科されることを、あらためて注意喚起しておきたい。

さて、組合員の皆さんはお客さまから全形牙について相談を受けたいことではないだろうか。平成三十一年夏から書類審査が厳しくなる予定のようだが、環境省では現在、国内の全形牙量把握を進めているので、象牙在庫把握キャンペーン事務局(〇三六六五九四六六〇)への相談をお勧めする。

届け出済業者の方は、二年ごとの事業報告提出依頼が郵送されていたと思う(十一月四日提出期限が、お忘れではないだろうか。取り扱いや在庫がなくとも、報告の提出義務がある。(伊波賢一)

TEL: 03-6659-4660

象牙白黒写真撮影(15分~17分)

環境省のキャンペーンポスター

TEL: 03-6659-4660

組合こよみ (平成29年9~10月)

9月1日 銀座刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第37号編集委員会(再校)、「刀剣評価鑑定士」実行委員会を開催。出席者、清水理事長、伊波副理事長、服部副理事長、嶋田専務理事、網取常務理事、大平理事、木村理事、生野理事、松本理事、冥賀理事、持田理事、深海相談役、土子氏、(公財)日本刀文化振興協会

「刀剣評価鑑定士」試験問題例③

- 【問1】登録証原物ではなく写しを付帯して研磨を依頼したが、問題はないか。正しいものを下から選びなさい。
①原物紛失の恐れがあるので、写しでやむを得ない
②登録証は刀剣類とともに移動しなければならない

- 【問8】江戸時代中期から後期にかけて栄え、代々の嫡流が味墨の号を用いた金工一派は何家か。次の中から正しいものを選びなさい。
①浜野家 ②菊岡家
【問9】最前線で戦った足軽たちの仏胴具足には、一目でその所属がわかるデザインが大きく施されている。「大一大万大吉」と漢字で書かれているのはどの戦国大名の所属か。次の中から正しいものを選びなさい。
①石田氏 ②明智氏

代表 紀伊国屋 松浦孝子
TEL 027-10812
FAX 027-10812

大刀剣市「西郷隆盛とその時代の刀工達」展 出品目録

- 太刀 銘 包永(西郷隆盛)
短刀 銘 村正(西郷隆盛)
刀 銘 金象嵌銘 志津(西郷隆盛)
脇差 銘 信國 應永四年二月十六日(西郷隆盛)
太刀 銘 定利(桐野利秋)
短刀 銘 薩州住藤原正房(村田新八)
刀 銘 肥前國住近江大掾藤原忠廣(奈良原喜左衛門)
刀 銘 (一葉葵紋) 玉置主馬首藤原朝臣一平安代 享保九年於薩州給黎郡作之(島津繼豊→近衛家久)
刀 銘 (一葉葵紋) 宮原主水正藤原朝臣正清 享保九年二月(島津繼豊→近衛家久)
刀 銘 肥前國忠吉 慶長六年八月吉日(勝海舟)
短刀 銘 新藤五國光(佐久間象山)



抱花杏葉紋散図鐔
銘 海野基平(花押)
天地五〇mm

私が出会った珍品・逸品
持田具宏

今回ご紹介する品物は、買い出し品の中にありました。
「ええ、海野氏。勝珉の若銘。藻税軒基平(花押)と銘し、蟻通、鬼面、唐人物の鐔、小柄、縁頭を高彫色絵の堅実な工法で彫る。良工。」

何と勝珉の若銘! 勝珉を引いてみると、明治四年に東京に出てきて宗珉にも勝る工人になろうと志し、勝珉に改銘したという。なるほど、この短刀の年紀は明治三年。基平はこの金具を製作した翌年、勝珉を名乗ったということになります。

刀剣・小道具・甲冑武具
飯田高遠堂
代表取締役 飯田慶雄
TEL 03-3951-3312

(株)美術刀剣松本
松本 富夫 義行
TEL 04-7122-1122

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
(株)日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami

銀座日本刀ミュージアム
泰文堂
TEL 03-3289-1366

刀剣 高吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 090-8845-2222

『刀剣界』は隔月で発行しています。現在、キャンペーン中につき、ご希望の方に3号分を無料でお送りしています。組合員・賛助会員以外の方で購読を希望される方は、お名前・送付先・電話・メールアドレス(あれば)を書面でお知らせください。また、お知り合いで刀剣に興味のある方がいましたら、教えてあげてください。(事務局)



埼玉県川越市 編

今日の俺の行き先は川越市新宿町。移転し心機一転となった三浦優子さん・智美さん姉妹の優古堂を訪ねる。リレー訪問で自転車で行った高坂で長く頑張ったが、川越に移り、さらなる充実を図る。

三浦さん姉妹かよ、綱取のやつ役得だな、と言う前に…見た？『刀剣界』第37号の四ページの上部の写真



川越優古堂店頭にて三浦優子さん(左)・智美さん姉妹と

真。奥にいる俺の足が写っていない！これって夏のTV番組の布い映像特集に出てきそうだな。不吉な晦日金曜日の川越街道。新座・朝霞辺りは道が狭く、肩のすく右側をタンクが通過していく。直後に自転車などは右側に吸い込まれそうになる矢先、またタンクが通過。さらに左のレストランから自動車が出かかっている。写真はこれの虫の知らせだったかと思え、思わず念仏を唱えたよ。

また、彼女の強い味方はお向かいのお家に住む刀剣女子の高校生というのも素晴らしい。そして今年、初めての川越祭を迎える。組合員なら、交換会会場の彼女を知る人も多かろう。「女だからといってなめんじやないわよ」というパフォーマンスではなく、会話でも人を逸らさず、下見をした物品を静かに待ち競っている。俺は昔、柴田光男初代理事長から若・貴・曙時代、大相撲のチケットを頂いたことがある。「見合って見合って」と始まるのかと思いきや、仕切り直しとなる。こんなとき、俺は館内のきれいな女性とかを探しちゃう。もう一度土俵を見たときには勝負がついている。同様、交換会会場でも誰かと世間話をしている間、宇宙と交信している間に気になる刀装具が競られ終わっている。

＊われらが業界に大変興味がおありで、なおかつ詳しい。＊業者さん同士の間関係も同様、余分な情報までくれる。＊意外にも行動範囲が広い。＊本当に愛刀家なのか、あまり買ってくれない。こつ書きながら俺は、一名様を思い描いている。持てる予算以上にわが業界に愛着を持ってくれているお客様(な)にすぎなく、書のある方ではない、とそのお客(様)の名譽のために付け加えておく。ムチムチした体形、オタクっぽいと思われていそうなこの方のビジュアル。刀剣店の女性店員には顔を見られるなり裸足で逃げられる、とその方は悲しむ。そんなお客(様)に三浦優子さんだけがこやかに接してくれているという。

三浦優子さん・智美さん姉妹はこんな孤独なお客(様)、俺のような醜怪な男にも優しい笑顔を女神のように投げかけてくれる。今年の「大刀剣市」でもこの姉妹のブースは愛刀家の足が絶えることになろう。オタクたちの足も絶えることになろう。(綱取譲一)

川越優古堂 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町一九一三 〇四九一四九〇七〇〇

NEWS & TOPICS

森井敦史さんと香織さんが結婚

去る十月十七日、横浜ベイコスターにて鞍師の森井敦史さんと竹内香織さんの挙式・披露宴が執り行われました。

披露宴は、人間国宝の本阿彌光洲先生(公益財団法人日本刀文化振興協会理事長)と森井さんの師匠である高山一之先生の祝辞で始まり、そして、美術刀剣外装技術保存会会長・宮島宏先生の乾杯の発声と同時に会場の大きなカーテンが開くと、朝から降り続いていた雨はすっかり上がり、眼下に

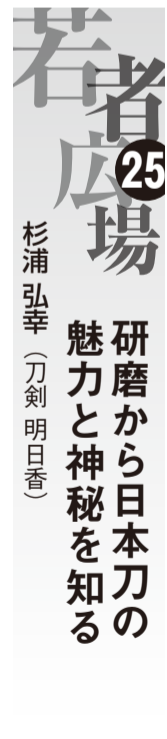
ベイブリッジと横浜港を見下ろせる素晴らしい景色に陽が射し込み、お二人の門出をお祝いするにふさわしい宴の幕開けとなりました。

敦史さんは、お父上恵訓氏と兄鐵太郎氏がそろって研師という職人一家に育ってきたため、真面目な上に真直で仕事には一切の妥協を許さず、木材選びの際には遠方まで足を運び、自身の目で見て納得する材料しか使わないという強いこだわりを持っています。その反面、プライベートではと



お二人に輝かしい未来を…

でも明朗快活で、話し上手な彼には誰もが引き込まれ、気付けば周囲には笑顔が絶えません。趣味は音楽ということ、若いころはバンドを組んでライブをするほどの熱の入れようだった聞きます。新婦の香織さんは容姿端麗な上に頭脳明晰で、加えてお父さまが大工職人ということもあり、木の匂いを共有する敦史さんを支える良きパートナーとなることでしょう。そんなお二人の素晴らしい前途を心よりお祈りしております。(藤田裕介)



研磨から日本刀の魅力と神秘を知る 杉浦弘幸(刀剣明日香)

はじめまして。刀剣明日香の杉浦弘幸と申します。拙い文ではありますが、この場をお借りして自己紹介させていただきます。父昭宏が刀の研師だったこともあり、刀との最初の関わりがあったのは幼少期でした。しかし、小さいころは仕事場の中にはほとんど入れてもらえず、研ぎの仕上げの段階になると鬼気迫る父の表情を見て、子供心に大変な仕事なんだなと思っていました。

アスファルトで砥石を薄くしたり平らにしたりなどのお手伝いをしたり、水を張ってある砥石の桶の底から泡がブクブクと出ていたの何だろうと「ジュー」と見ていたら蛙が飛び出してきてビックリしたり、今となればとても良い思い出です。本格的に仕事として意識し出したのは、大学生の夏休みに研ぎの初歩的なことを教えてもらったときです。初めての刀の研磨なのでとても緊張したことを今でもよく覚えています。

成人のお祝いでもらった鳳凰と麒麟の目貫の彫りの素晴らしい感銘を受け、刀装具が好きになりました。

市場に参加するようになってまだ二年ですが、粋な先輩方にもよく教えていただき、本当に恵まれた環境で仕事ができている。日本の素晴らしい文化を少しでも普及できるように頑張っていきたいと思っています。

若輩者でございますのでご迷惑をおかけすることもありますが、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

一筆啓上 柔和な顔立ちの杉浦弘幸さん、父上の背を見て刀剣界に仲間入りして二年、市場でこれと思った刀装具や現代刀では強気の「やり」で周りを唸らせました。市場で先輩方の指導を受けながら勉強中です」と謙虚な言葉のお人柄、これからますます躍進されることでしょう。(松本義行)

刀剣明日香 〒124-0003 葛飾区お花茶屋二二一 〇〇八〇 六八六六五一九三

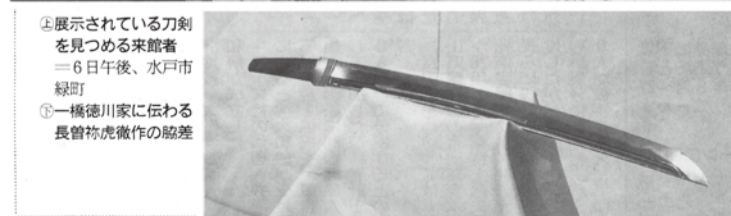
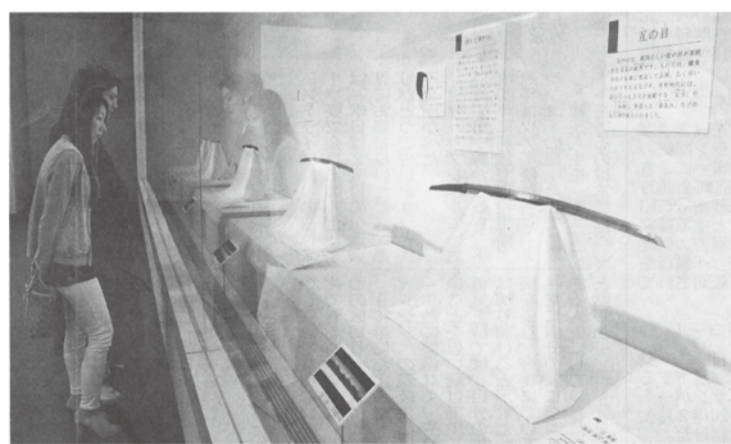
県立歴史館企画展 異例1万人超

異例歴史館(水戸市緑町)で開催中の企画展「刀剣のイロハ」が人気を博している。初日の8月8日から今年6月までの来場者は1万人を超え、すでに通常の倍近い人数となっている。急増の背景には、若い女性を中心とした「刀剣ブーム」があることと、同企画展にあわせて講演会などの関連イベントも軒並み満員となっている。担当者は「当初の見込みよりも好評で、うれしい誤算」と歓迎している。

同館で今年度すでに開催された2つの企画展の来場者数は、それぞれ約5200人と約5900人。「刀剣のイロハ」には、期間を2週間以上残して1万507人が来場しており、その注目度がうかがえる。

来場者の年齢層は幅広く、同館教育普及課では「刀剣ブームで若い世代にも目を向けたい」と分析している。同展では「そもそも刀剣って？」という説明から始まり、刀剣の種類、肌や刃の差、時代ごとの形の変遷、装飾などを実際の刀剣類で例示しながら解説している。初心者向けとはいえず、52点ある展示品は、一橋徳川家や

盛況 沸騰「刀剣のイロハ」



④展示されている刀剣を見つめる来館者 =6日午後、水戸市緑町 ⑤一橋徳川家に伝わる長曾祿虎微作の脇差

ブック・レビュー BOOK REVIEW

明治の成功体験が昭和の失敗の基だった
『「司馬遼太郎」で学ぶ日本史』

磯田道史 NHK出版新書 定価八四二円(税込)

司馬遼太郎はわれわれ刀剣商にとってもポピュラーな作家であり、誰もが一度は読んだことのある作家でしょう。

しかしながら、幕末から明治維新、そして日清・日露戦争を経て大國になって以降の歴史小説は書いていない。

司馬遼太郎は大阪外語大学の蒙古語学科出身であり、第二次世界大戦のときに学徒出陣により陸軍に配属され、中国東北部の満州に渡った。そのときの体験について『この国のかたち』に次のように記している。

「私は、ソ連の参戦が早ければ、ソ連製の徹甲弾で戦車を串刺しにされて死んでいたはずである。」
そして、その四、五年前に満州で起きたある事件について、絶えず考えを巡らせていました。ついに昭和期の小説を書くことになった司馬遼太郎が、幾度も取材を重ねてきたのが「ノモンハン事件」です。

これは一九三九年五月から九月にかけて起こった、日本が大陸に派遣している関東軍と、ソ連・モンゴル連合軍との軍事衝突です。この戦いで、最強と言われた関東軍は死傷者七〇%以上という大敗北を喫します。中でもソ連のBT戦車は、攻撃力と防御力において日本の戦車を凌駕していました。このノモンハン事件については、小生も苦い思い出がある。ノ

モンハン時の連隊長で、戦場で自決し、戦死扱いで一階級昇進した山県武光少将の遺品の整理を、遺族より依頼されたのです。

司馬遼太郎がノモンハン事件について調べていたのは知っていたので、司馬遼太郎記念館にお声をかけてみました。すると、「これは司馬遼太郎が収集した品物を展示・研究することになるので、新たな資料は必要ない」と言われてしまいました。それで「天刀剣市」に出品したところ、明治・大正・昭和二十年までの軍隊物を収集する方に出会い、助かった次第。

閑話休題。日本の陸軍は満州事変以後、戦車や装甲車の編成を進めましたが、戦車と戦車が戦うという戦争を想定していません。致命的な欠陥を持った戦車を配備しました。あるいは、その不都合な事実を気づいていたものの、深く考えないよう

にしていたのかもしれない。当時の陸軍ではなぜ、このような不都合がまかり通ったのか。「深く考えない」という日本の習慣は、なぜ成立するのか。明治時代の日本の軍隊には、強力な武器を持って相手を圧倒する精神があったかもしれない。日本はいつからそんな国になってしまったのか。これらの問いこそが、司馬遼太郎の創作活動の原動力でした。

司馬遼太郎は明治維新から廃藩置県、大日本帝国憲法制定、帝国議会開催、日清戦争、日露戦争という時代を二つの理想として描いています。が、自分自身が経験した「昭和前期」そして「ノモンハン事件」も書かなければと思っていたのかもしれない。



「この国のかたち」には「昭和ヒトケタから同二十年の敗戦までの十数年は、な

が歴史のなかでもとくに非連続の時代だった。「明治憲法下の法体制が、不覚にも孕んでしまった鬼胎のような感じ」と書いている。

鬼胎つまり鬼っ子を生んでしまったのは、日露戦争で勝った際に数多くの軍人たちが、爵位を持つ華族になったことです。下級武士出身の功

労者が主君の旧大名を追い越して、爵位の上で偉くなりました。その数百人。
戦争で勝つ者が華族になり、場合によっては貴族院の議席や世襲できるのを見てしまったのですから、新たに軍隊に入ってくる若者、特に維新で賊軍にされてしまった奥羽越

出身者たちが、薩長出身者たちに後れを取らんと、日露戦争のまねっこ戦争を考え、自分が華族になる姿を想像するのは当たり前です。冷静に世界情勢や日本の国力を分析して、軍を縮小しようなどとは思ってはいないでしょう。
さらに決定的なのが、ドイツへの傾斜でしょう。以下は、磯田道史氏の文をそのまま引く。

「天皇の国家がドイツ服を着て大日本帝国を名乗ったのです。ところがこのドイツ服には落とし穴がありました。この服にあわせた軍隊アーツが、なんと一度履いたら死ぬまで踊り続ける『赤い靴』だったのです。日本は軍事国家になって踊り続け、右足の陸軍、左足の海軍という足を切り落とされるまで止まらなかつたという、恐ろしい結果になった、というのが昭和に至るこの国の歴史です。」
名言である。そして日本を「鬼胎にした正体」それはドイツから輸入して大きく育ててしまったもの、すなわち「統帥権」でした。

今回は明治以後のことを書きましたが、この本には『國盗物語』『花神』という小説も取り上げているので、ぜひ一読されたいと思います。
(持田真宏)

海外通商 05
海外刀剣事情 十五年ぶりの
サンフランシスコ刀剣会

八月四日から三日間開催されたサンフランシスコ刀剣会に、約十五年ぶりに参加してきた。

それ以前の十数年間は、米国各地で開催されるジャパニーズ・ス

ワード・ショーに年六、七回は行き、名刀探しを楽しんだものだ。

二月のタンパ、四月のヒューストン、五月のダラス、八月のサンフランシスコ、十月のシカゴのほか、

ニューヨークやロサンゼルスでも開催されていた。今思えば、本当に懐かしい。

フアクシミリが世界に広まると、刀剣の銘の真偽が瞬時にある程度わかるようになった。さらに通信技術が発達し、今では鮮明な画像

が得られ、銘の真贋が正確に判断できる。わざわざ米国に行き、掘り出し物を見つけてようとしても、

その可能性は非常に低い。
米国に行かなくなった理由は、

ほかにある。
田高が急速に進んでドル二八

十円にもなったり、輸入には非常に

に不利な時代もあった。また、バブルの崩壊やリーマン・ショック

等の国内の経済的要因、さらにインターネットの普及により、日本

刀の価格が世界中でほぼ共通するものになってしまったことも理由

に挙げられる。
しかし、原因は何と言っても自身の体力・気力の衰えで、米国行きが次第に遠のき、十五年間のブ

ランクとなったのである。それでもこの数年、八月が近づくと、元

氣なうちにも一度サンフランシスコ刀剣会に行きたいと、独り言を言っていた。

そんな折、ある席で楽しかったアメリカ行脚の思い出話をしてい

たとき、松本義行さんが「ぜひ一度行ってみたい」と言ってくれたので「一緒に行きましょうか」と

なった次第。
サンフランシスコ空港での入国

審査はやはり厳しかったが、マイク山崎氏とジョーさんが出迎えて

来てくれたので一安心。刀剣会会場となる空港近くの

ホテルに着くと、大勢の昔の仲間が温かく迎えてくれた。最

初は「ミスター冥賀？」と何人にも尋ねられ長いフランク

を感じたが、すぐに打ち解け再会を喜び

合った。
翌朝八時に二階の

広い会場に行ってみると、既に大勢の関係者が集まってい

た。初日午前にはセッ

トアップのために一般客は入場できない

のだが、サンフラン

シスコ刀剣会会長のフレッド・ワ

イズバークさんやマイク山崎氏の配慮で特別に参加することができた。

広さは東京美術倶楽部での「大

刀剣市」と同じ。そこに約百台のテーブルが整然と並び、白布が敷

かれ、その上に刀剣類が無造作に置かれている。値札は付いていな

い。価格は相対での交渉である。初日は高いが、次第にこなれ、最

終日には半値以下になることも。三段に白布を掛け、価格を明示

しているテーブルもいくつか見だ。かつてなら考えられない展示だ。

さらに大きく変わったのは、鎧身の刀が極端に少なくなったことである。昔は八割以上が鎧身で

鑑定書の付いているものなどほとんどなかった。今では大半に鑑定

書が付いている。
これには理由がある。大刀剣市

の場合の売り主はすべて全刀商組合員であるが、アメリカの刀剣会

は売り主が全て業者であるとは限らない。ディーラーももちろん

いるが、多くはコレクターである。そのために、コレクションへの配

慮が現れているのである。
コレクターには弁護士・医師・

パイロット・実業家など、さまざま

な本業の方々がいる。この刀剣会は、世界中の愛刀家が一年に一度、サンフランシスコに集い、再

会を喜び、夜は酒を酌み交わしながら刀剣談義を楽しみ、ついでに

長いイベントなのである。
参加者は三百人前後、米国のほか、欧州各国、東洋諸国、南アメリカ、ニュージーランドなどから訪れる世界の愛刀家の祭典である。

今回、主催者が並々ならぬ努力をされていることにも感じ入った。われわれが支払う宿泊料金には特別な配慮がなされていたし、二

日目に催された名刀鑑賞会と一本入札鑑定は、十分楽しめるものであった。世界の愛刀家のレベルが

すごぶる高くなっていることは、ここでも実感できた。
別室では日本刀保存会主催の審査会も開催されていた。米国において日本刀の普及のための活動を推進してこられた吉川永一先生

はじめ、日本刀剣保存会の皆さまにも深く敬意を表したい。
楽しい三日間はあっという間に過ぎていった。期待していなかったが、掘り出し物も見つけることができた。小鎧はあるものの、見

事な不動明王の彫りのある出羽大塚国路の脇指である。
米国には宝物がまだまだたくさん眠っている。来年のサンフランシスコ刀剣会にはぜひ行かれては

いかがでしょうか。市内観光も素晴らしいが、時間に余裕があればラスベガスやグランドキャニオン、ヨセミテ国立公園に足を延ばすことをお勧めします。
最後に、ワイズバーク会長、マイク山崎氏、松本義行氏にはお世話になりました。深く感謝申し上げます。
(冥賀吉也)



サンフランシスコ刀剣会の会場風景

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定
(株)城南堂古美術店
代表
田中勝憲
〒1153-1005-1
東京都目黒区上目黒四-1-11-10
TEL 03-3771-0167
03-3771-0168
03-3771-0169
FAX 03-3771-0167

アオバ企画(株)
高橋一
〒1130-0012
墨田区大平四-1-19-11-1308
TEL 03-3662-1111
03-3662-1112
FAX 03-3662-1115
メール aobakk@pb8.so-net.ne.jp

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

NEWS & TOPICS

「龍馬展」に合わせて トークイベントが開かれる

坂本龍馬ゆかりの刀「陸奥守吉行」の展示に合わせ、刀剣の歴史や魅力を語るトークイベントが高知県香南市の創造広場「アクトランド」で十月八日に開催され、東京国立博物館の末兼俊彦主任研究員が「世相が乱れると、身を守るために武器が欲しくなる。必要になりこそとばかり刀が売れ出したのが幕末の世相」と解説した。アクトランドで開催中の企画



龍馬の愛刀「吉行」に関心が集まった

展「坂本龍馬―維新への軌跡とその想い」(十月七日〜一月十四日)の関連企画として催された。土佐史談会の宅間一之会長が司会を務め、末兼研究員のほか、北川村立中岡慎太郎館の豊田満広学芸員、愛媛県新居浜市の刀匠・藤田宗久さんが登壇。約八十人が参加した。末兼研究員は、大規模な戦がなく、刀剣の需要が縮小していた江戸時代の刀市場を解説。大坂の刀工たちが打開策として独創的で美しい刃文などの付加価値を凝らし、「作者のアイデンティティ」を表現した」と話した。

拳形丁子の特徴とする吉行もその一つ。史料が乏しく、その正確な経歴はよくわからない。末兼研究員が、現在の福島に生まれ、大坂で修業し、高知で作刀したと伝わる。龍馬が持っていたとされる吉行は京都国立博物館に所蔵されるが、アクトランドでは刃長六六・七センチの同作が公開されている。藤田さんは「世界無比の鉄の芸術品」とも呼ばれる刀剣の鑑賞ポイントや、時代別の特徴などの基礎知識を解説。豊田学芸員は、幕末期の土佐を代表する刀工たちや、磨刀令後、田中光頭らが中央刀剣会を設立し、美術品として後世に継承する活動に取り組んだことを紹介した。



左から宅間座長、藤田・末兼・豊田の各講師

NEWS & TOPICS

日本オープン の優勝副賞に日本刀を贈呈

第八十二回日本オープンゴルフ選手権は十月十二〜十五日、岐阜関カントリークラブで開催され、



池田勇太郎の優勝で幕を閉じたが、今年の優勝副賞には関市ならではの新作日本刀が用意され、話題を呼んでいる。製作したのは関伝日本刀鍛錬技術保存協会刀匠会代表の尾川兼國刀匠。刃長二尺四寸二分の豪壮な刀を贈呈するに当たり、関市の尾関健治市長は「日本のサムライとして世界に切り込んでほしい」と兼國刀匠は「日本一の方に持っていただけ光栄」とコメント。池田は「これのために優勝しました」と満面の笑みを見せていた。池田の憧れであるジャンボ尾崎は、刀剣を「こよなく愛している」と

と知られている。米国にある世界ゴルフ殿堂の尾崎専用ロッカーには収集している日本刀を収蔵している。池田が世界殿堂入りを果たした際には、この刀もロッカーに納められるかもしれない。

創造広場アクトランド 1178-1-10000 高知県香南市野市町大谷九二八-1 ☎0887561501 <http://aactland.jp/index.php>

日本刀の
江戸屋
名品・名刀を販売

店主 小暮 昇一

〒5529-1331
滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-1
TEL 07491442127
携帯 09013162176
<http://www.goushuya-ehonon.com>

NEWS & TOPICS

刀剣業者に日本刀の返還命じる

福井市の刀剣類販売修理会社・勝山剣光堂に、修理や委託販売のために預けた日本刀などが返ってこないとして、十一府県の十七人が同社に返還を求めた訴訟で、福井地裁(林潤裁判長)は九月二十日、同社に対し、日本刀二十二本などを返還するよう命じた。

判決によると、原告らは平成二十五〜二十八年、所有する日本刀や付属品を勝山剣光堂に預け、修理や販売を依頼。その後、同社の対応が悪かったことなどから預けた品物の返還を求めたが、同社はキャンセル料を支払わなければ所有権が同社に移ると主張し、返還

に応じなかった。林裁判長は判決理由で、キャンセル料が発生する契約になっていなかったと指摘、「会社側の主張は一方向的で認められない」とした。判決後に記者会見した被害者の会の村内光晴事務局長は「命令が出てもまだ返って来なければいい。原告以外の会員らも含め最後まで救済したい」と話した。勝山剣光堂を巡っては、客の刀を返さなかったとして、業務上横領などの疑いで経営者の勝山智充被告(48)が福井県警に逮捕・起訴され、福井地裁で公判中。

第2回「奉納刀研磨プロジェクト」 ご支援のお願い

現在、神社仏閣に奉納されている刀剣の多くは、錆びた状態で保管されています。そのまま放っておくと、いつか価値のないものになってしまう恐れがあり、それを防ぐためにはもう一度研磨する必要があります。

「奉納刀研磨プロジェクト」は昨年第1回を開催し、多くの皆さまのご支援により成功を収めることができました。この度、最初に研磨を予定しているのは「大雑刀 銘盛光」(岡山県瀬戸内市・平手山弘法寺遍明院蔵、重要文化財)全長2.3メートルです。

この貴重な刀剣をもう一度研磨するため、ご支援をお願いします。さらに集まった浄財で、できるだけ多くの奉納刀を研磨していきたいと考えています。

詳細は、<http://okayama.cizk.net/>
日本美術刀剣保存協会岡山県支部
「奉納刀研磨プロジェクト」
実行委員長 小池 哲

イベント・レポート

小田原城天守閣「武者揃え」の時代の装い」 小田原城が歴史テーマパークに生まれ変わった

小田原城で特別展「武者揃え」の時代の装い」が七月八日から九月二十四日まで開催された。楽しみにしていたのは、亀井公爵家に伝わった胴丸具足。かつて自分の手にあったとき、師と仰いだ笹間良彦氏に、南北朝期の鉢のリサイクルと確信し兜を見てもらったことがある。そのときは、氏に「江戸期における精巧な写しであり、君が南北朝と見まごうのに無理はない」と言われ愕然とした。それを今再び確認したいと思っただけ、係員曰く「入れ替えがあり、ポスターのものが全てあるわけではない」とのこと。残念な結果となった。

現在は一般社団法人日本甲冑武具研究保存会により南北朝期の鉢間に小田原城はリニューアルし、エアコンが完備され、歴史のテーマパークとして生まれ変わった。カップルや家族連れも多く、新たな神奈川の観光の拠点としてスタートを切っている。



武者揃え
7月8日(土)〜9月24日(日)
小田原城天守閣
小田原城天守閣
小田原城天守閣

特別付録「刀剣BOOK」発刊

「一生モノに出会いたい! みんなの愛用品」をコンセプトに個性的な暮らしと趣味のテイストを紹介する月刊誌『Discover Japan』12月号に、特別付録『刀剣BOOK』が付いて発売中。定価980円(税込)。



日本刀の愛好家と言えば、数年前までは男性がほとんどでした。ところが、現在はゲーム「刀剣乱舞」をプレイした女性ファンが日本刀に興味を持つケースが増え、鑑賞会などのイベントも賑わいを見せるなど、刀剣ファンが急増しています。また、従来は時代が古く、由緒のしっかりした刀が話題の中心でしたが、昨今は製作年代を問わずに刀そのものの美しさに魅せられる人も増えるなど、楽しみ方も多様化しています。そもそも、江戸時代には名刀を所有できるのは大名家くらいでしたが、今なら美術館で傑作の数々を気軽に鑑賞できますし、現代の刀匠に自分だけの一振を打ってもらうこともできます。日本刀を楽しむという意味では、現代ほど素晴らしい時代はないと言えるのです。

〈主な内容〉名刀コレクション/まずは知りたい刀の基礎知識/現代の刀匠たち/日本刀が見られる場所

巡回特別展「鑿の華—光村コレクションの刀装具—」

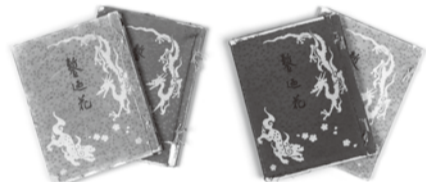
■11月3日から根津美術館で開催されている特別展「鑿の華—光村コレクションの刀装具—」。既に足を運ばれた方も多いと思われるが、あらためてその意義・魅力と、各会場での鑑賞することのできる希少なコレクションについて特別に許可を頂き紹介する。(飯田慶雄)

本展覧会を語るに当たりまず紹介しなければならないのは、明治期の刀剣・刀装具の大収集家として知られる光村利藻(号龍獅堂、1877-1955)についてである。

多くの愛好家にとって垂涎的である龍獅堂コレクションは、氏の卓越した審美眼によって選び抜かれた優品の数々が、当時最先端の写真技術で撮影・制作され、専用に誂えられた箱に納められた図録『鑿廼花』に収録されている。



若き日の光村利藻



『鑿廼花』は明治36年から40年にかけて第4巻まで刊行された大型名品図録。当時の最新技術を用いた美しい写真に加え、装剣金工一人一人の略伝もまとめ、きわめて資料的価値の高い名著となった。(個人蔵)

これだけ見ても、氏の刀装具に対する並々ならぬ愛情がうかがえるものである。一方、その日本最大規模のコレクションに加え、彼が明治の廃刀令以後、衰退していくわが国の伝統文化を守ろうと尽力したことは、あまり知られていない。

その一つは、当時不遇をかこっていた多くの名工たちに刀剣・刀装具・日本画などを制作させ、その技術伝承の庇護者となっていたことである。また、神戸の自邸で数百人規模の刀剣鑑賞会を幾度も開催して啓発普及に努めていた。

光村は当時先進の技術であった写真術に触れたことに端を発し、自ら印刷業を興した実業家でもあった(現在の光村印刷株式会社)。海外の最先端機器や技術者を招聘して、日本の印刷技術の向上に大きく寄与し、さらにそれを生かして『鑿廼花』を



編纂したことは、一愛好家、一実業家の枠を超えた偉業と称えるべきであろう。

筆者は、光村の功績を知るにつれ、その足跡や人柄が徐々に人々の記憶から忘れられていくことに危機感を覚え、回顧展となるような展覧会を開催してもらいたい、かねがね思っていた。そして、それを主導すべきは、かつて光村コレクションの全てを引き取るという英断をもって、その海外流出を寸前で食い止め、今でも国内最大規模の同コレクションを所蔵している根津美術館において他にはないと、同館の学芸員と話していたものである。

かねてからコレクションの全貌を紹介したいと考えていた同館や、10年以上にわたり光村の刀装具収集とパトロンエージについて研究してきた大阪歴史博物館の調査によって、新出の資料に加え、広く海外からも作品を集めた大展覧会になることは、きわめて感慨深い。

筆者の知る限り、光村利藻の没後最大級の龍獅堂コレクションを扱った展覧会であり、広く世界中から名品が集まるコレクション展となる。ぜひとも多くの皆さまにご高覧賜りたい。



芙蓉朝顔図目貫



鍾馗鬼図大小鐔



波葦蒔絵合口拵



刀 月山貞一作

<第1会場>根津美術館

〒107-0062 東京都港区青山6-5-1

☎03-3400-2536 <http://www.nezu-muse.or.jp/>

会期：平成29年11月3日(金・祝)～12月17日(日) 月曜休館

根津美術館は、東武鉄道の社長などを務めた実業家・初代根津嘉一郎(1860～1940)が収集した日本・東洋の古美術品コレクションを保存・展示する美術館として1941年に開館。国宝7件、重要文化財87件、重要美術品94件を含む7,400件を超える大コレクションを収蔵している。

根津コレクションには、絵画・書跡・漆工・陶磁・刀剣・中国古代青銅器など幅広い分野の高級品が揃っているが、本展覧会が行えるのは、光村コレクションが売りに出され、海外に流出する危機に際して、作品

を見るまでもなく購入を即決された根津嘉一郎氏の英断によるところが大きい。



根津美術館(撮影/藤塚光政)

<第2会場>大阪歴史博物館

〒540-0008 大阪府中央区大手前4丁目1-32

☎06-6946-5728 <http://www.mus-his.city.osaka.jp/>

会期：平成30年1月27日(土)～3月18日(日) 火曜休館

大阪歴史博物館は大阪を代表する歴史系の博物館である。大阪城と難波宮跡に隣接する地にモダンな外観を誇っている。

今回のテーマに関して、担当学芸員の内藤直子様より調査研究過程での逸話を伺えたので、執筆の労を執っていただいた。

「鑿廼花編纂資料」発見譚

内藤直子

今から遡ること10年前、名著『鑿廼花』と光村利藻の業績に興味を持っていた私は、科学研究費補助金を得て、光村利藻の足跡を追う研究を行いました。その中で、今回の展覧会の基礎資料となるいくつかの事跡に注目し、その情報を活字の報告書と、ウェブ上の報告記事にして残しました。その中で、『鑿廼花』所載の金工略伝を執筆するために光村らが行った、菩提寺や遺族等への調査活動の記録がかつて存在していたこと、現在の所在は分からないものの、明治時点での金工の調査記録として重要な資料であることを指摘していました。

それから10年が経ち、日々に紛れてこの研究のことも忘れかけていたある日、京都国立博物館(当時)の末兼俊彦研究員から一本の電話がかかりました。

刀剣関係らしい文書だと紹介されて見にいってところ、どうも金工関係らしいがよく分からない。そこで、出てくる名前をキーワード検索したら、なんとあなたの科学研究費の研究報告が出てきて驚いた。もしかして、あなたが探している資料ではないかと思うので見て欲しい、というものでした。

早速拝見に伺うと、まさしく『鑿

廼花』編纂資料そのものでした。まさかこんな形で出てくるとは思っていなかったもので、うれしさよりも信じられない気持ちでいっぱい、間違いではないか、と何度も確かめたほどでした。末兼さんのご高配で資料は京博に所蔵されることになったので、再び研究費を取り、京博のご協力の下、その詳細調査を行っています。調査終了時にはまた報告書を作成し、広くお伝えをと思えます。



大阪歴史博物館

根津美術館さんから「鑿の華」展のお話をいただいたのは、そのわずか2、3ヶ月後のことでした。資料の発見に続き、念願の企画を実現する機会が到来し、10年間なんの動きもなかった研究テーマが、数ヶ月のうちにあっという間に進展したのです。ちょっと気持ち悪いぐらいの偶然の連続でした。

この新発見資料の中から、今回の特別展では、光村利藻が開催した刀剣鑑賞会に関する資料数点をお借りし、展示します。光村利藻という人物そのものと蒐集品、双方のスケールの大きさが伝わってくる資料です。素敵な作品群に紛れて、地味で見落としそうな展示物ですが、ご観覧の際にはぜひこちらにもご注目いただければ、と思えます。

<第3会場>佐野美術館

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43

☎055-975-7278 <http://www.sanobi.or.jp/>

会期：平成30年4月7日(土)～5月20日(日) 木曜休館

佐野美術館は、実業家の佐野隆一(1889-1977)が収集した日本・東洋の優れた美術品約2,500件を基礎とした美術館です。刀剣・人形・絵画・絵本など多彩な内容の展覧会を開催しており、特に日本最高峰の刀剣を主にした展覧会に定評がある。

同館には光村コレクションから太刀利恒(重要美術品)が所蔵されており展示予定。光村コレクションが刀装具のみならず多岐にわたって名品を集めていたことの証左である。

なお同館のある三島市は東海道の宿場町として古くから栄え、富士の



佐野美術館の庭園と隆泉苑

湧き水が至る所に見られる伝統と清流の街。同館にお出かけの際は見事な回遊式庭園と「隆泉苑」にもお寄りいただくことをお勧めする。

催事情報

九州国立博物館

〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2
☎092-918-2807 http://www.kyuhaku.jp/

特別展「新・桃山展—大航海時代の日本美術」

本展覧会は、倭寇の船で来日したポルトガル人が鉄砲を伝えた1543年(または1542年)から、徳川幕府がキリスト教を禁じ、貿易統制を布いて「鎖国」を完成させた1639年までの約100年間に焦点を当て、「文化交流」という視点からこの激動の時代の美術をあらためて見つめ直すものです。

この時期、世界に目を向ければ、大航海時代の先駆を務めたポルトガルとスペインがアジアに到達して交易と宣教を推し進め、それに追尾する形でオランダやイギリスも東方貿易に参入しました。このころ日本国内は、戦国大名が割拠する室町時代末期から、統一政権が誕生する江戸時代初期に当たり、その間、長い交流の歴史を持つ中国や朝鮮のほか、東南アジアの各地域やヨーロッパとの交渉が積極的に行われました。

本展覧会では、目まぐるしく変化する時勢と、人・モノの往来に対して異なる外交政策を取った3人の天下人—織田信長、豊臣秀吉そして徳川家康—を各章の案内役にすえ、彼らの時代を彩った名宝を、対外交渉という観点から新たに見直します。

またエピソードでは、大航海時代に日本の屏風絵が数多く海を渡ったことに注目します。当時、日本から輸出された作例は、残念ながら現存しません。しかし、かつてスペイン領メキシコやポルトガル人居留地のマカオでは、日本からの輸出品にならない、油彩画の屏風ピオンボが制作されたと言われます。この度、国外コレクションに収められた貴重なピオンボを日本で初めて公開し、近世初期に日本絵画が海外の美術に与えた影響の軌跡をご覧ください。

〈展覧会構成〉

第1章 アジアの海と信長の覇権 / 第2章 秀吉の世界への眼差し / 第3章 徳川幕府と「鎖国」への道 / エピソード 屏風の軌跡

会期：10月14日(土)～11月26日(日) 月曜休館



海陽町立博物館

〒775-0202 徳島県海部郡海陽町四方原字杉谷73
☎0884-73-4080 http://www.town.kaiyo.lg.jp/docs/2017052000016/

第47回企画展「風土が育むくろがねの美 備前刀&海部刀」

海部刀は、阿波国(徳島県)の郷土刀である。約650年前の南北朝時代、海部川流域の一方を支配していた土豪・海部氏が、自国を守るために製作を始めた。海部川の水や流域で採取される砂鉄など良質の素材を使い、海部の刀工たちが大量に生産。切れ味の鋭さが評判となり全国の武将に愛用された。

その全盛期は、室町時代から戦国時代。長篠の戦のあった天正2年(1575)に土佐の長宗我部元親が侵攻し、海部城が落ちてからは次第に衰退した。江戸時代に入ると、徳島藩主の蜂須賀家が海部の刀工を城下に呼び寄せ、産地を海部から徳島に移し、製作は幕末まで続いた。

代表的な海部刀は、室町期に阿州氏吉が製作した名物「岩切海部」。海部刀が「切れ味抜群」との評価を得たのは、この作品がきっかけとされる。徳島ゆかりの戦国武将・三好長慶が所蔵し、後に福岡藩主の黒田家に伝来した。

会期：10月28日(土)～1月21日(日) 月曜(祝日の場合はその翌日)・年末年始休館



仙台市博物館

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地<仙台城三の丸跡>
☎022-225-3074 https://www.city.sendai.jp/museum/index.html

特別展「伊達政宗—生誕450年記念」

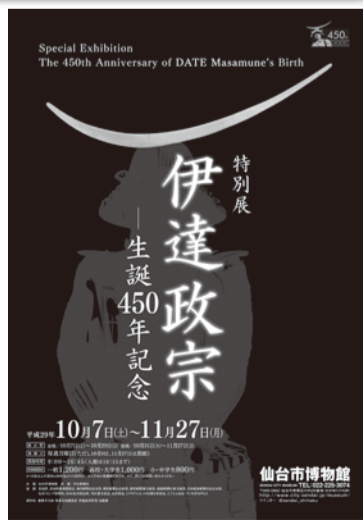
東北地方を代表する戦国武将であり、初代仙台藩主である伊達政宗は、平成29年で生誕450年を迎えます。本展は、そのような節目の年を記念して開催します。

仙台市博物館の館蔵資料はもとより、国内各地の多彩な関連文化財230件から彼の足跡や生涯をたどり、動乱の時代を駆け抜け、泰平の世を生きた伊達政宗の人物像に迫る機会とします。

〈展示構成〉

プロローグ 描かれた「独眼竜」

第I章 戦国武将 伊達政宗—1567～1600
第II章 政宗を取りまく人びと—家族と家臣たち
第III章 仙台藩主 伊達政宗—1601～1636
第IV章 政宗の素顔—武芸・文芸・趣味・嗜好
エピソード 政宗の死とその後
会期：10月7日(土)～11月27日(月)



ふくやま草戸千軒ミュージアム

〒720-0067 広島県福山市西町2-4-1
☎084-931-2513
http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/rekishih/

特別展「エヴァンゲリオンと日本刀展」

この展覧会では、現代の日本刀の職人たちが、アニメ「エヴァンゲリオン新劇場版」に登場する槍や刀剣、そしてその世界からインスピレーションを受けて制作した現代デザインの日本刀を展示します。併せて備後地方(広島県東部)の刀剣の歴史も紹介します。4つのコーナーからなる本展と、備後地域の刀剣の歴史を紹介する特設コーナーで構成されています。

会期：9月30日(土)～12月3日(日) 月曜休館



森記念秋水美術館

〒930-0066 富山市千石町1-3-6
☎076-425-5700 http://www.mori-shusui-museum.jp/

日本刀〈姿の美〉

日本刀は平安時代中期ごろに誕生し、現在に至るまでの約一千年の間受け継がれてきました。初めは武器として生まれ、歴史の転換となる大きな場面でさまざまな形で登場し、武士の表道具として大切に受け継がれてきました。これは日本刀の持つ美しさが古来、人々を引き付けてきたからにほかなりません。

その美しさは刀身の反りなど、形状にも表れています。当時の人々の

美的感性や価値観、戦闘方法など時代によって形状を変えてきており、それを「姿」と呼んで日本刀の見所としてきました。

今回の展示では当館所蔵の日本刀から、各時代ごとに特徴的な姿の作品を展示し、美しさと実用性を兼ね備えた姿の魅力をご紹介します。

会期：9月30日(土)～12月27日(水) 月曜休館

埼玉県立嵐山史跡の博物館

〒355-0221 埼玉県比企郡嵐山町菅谷757
☎0493-62-5896 http://www.ranzan-shiseki.spec.ed.jp/

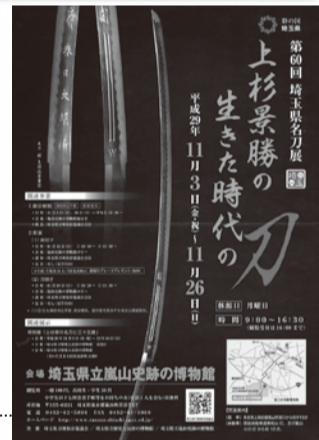
第60回埼玉県名刀展「上杉景勝の生きた時代の刀」

日本刀は単なる武器ではなく、優れた美術工芸品であり、時代の権力者たちによって愛され、受け継がれてきた貴重な歴史資料でもあります。

本年は、埼玉県刀剣保存協議会が昭和32年から開催してきた「埼玉県名刀展」が60回を迎える記念の年であることから、同会・埼玉県立歴史と民俗の博物館・埼玉県立嵐山史跡の博物館との共催事業として「上杉景勝の生きた時代の刀」を開催することになりました。

なお、この展示は歴史と民俗の博物館で開催する特別展「上杉家の名刀と三十五腰」の関連企画でもあります。

会期：11月3日(金・祝)～11月26日(日) 月曜休館



埼玉県立歴史と民俗の博物館

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219
☎048-645-8171 http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/?page_id=53

特別展「上杉家の名刀と三十五腰」

戦国時代の雄、上杉謙信は関東管領を継承し、天皇家・将軍家などから数多くの名刀の贈与を受けました。また、謙信の養子景勝も、それらの刀剣を受け継ぎ、「上杉景勝腰物目録」を記すなど、刀剣に強い関心を持っていました。そのため、上杉家伝来の刀剣類には優品が多く、「上杉景勝腰物目録」所載の刀剣類の多くも、国宝や重要文化財として現在まで伝わっています。

今回の特別展では、日本各地で大切に受け継がれている上杉家の名刀が一堂に会します。

会期：11月3日(金・祝)～12月10日(日) 月曜休館



政府は「明治150年」関連施策を推進しています

平成30年(2018)は、明治元年(1868)から起算して満150年に当たります。政府では、内閣官房副長官を議長とする「『明治150年』関連施策各府省連絡会議」を設け、①明治以降の歩みを次世代に遺す施策、②明治の精神に学び、さらに飛躍する国へ向けた施策、③明治150年に向けた機運を高めていく施策、の3つを柱として、政府一体となって「明治150年」関連施策を推進しているところです。国だけでなく、地方公共団体や民間も含めて、日本各地で、「明治150年」に関する多様な取組が推進されるよう、ロゴマークの使用促進や広報などを通じて、「明治150年」に向けた機運の醸成を図っています。

詳しくは以下のホームページをご覧ください。
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/meiji150/portal/

